

(一財) 福岡県バレーボール協会
各種別代表者様
競技担当者様

(一財) 福岡県バレーボール協会
競技委員長 川原 邦彦

バレーボール再開に向けての共有事項

日頃より、競技会の企画・運営やバレーボールの普及活動にご尽力いただき誠にありがとうございます。また、本協会の事業に対してもご理解とご協力をいただき、重ねてお礼申し上げます。

今年度の各種別におけるバレーボールの活動については、感染症拡大防止の観点から年度当初の予定とは大会開催をはじめ様々な事業が中止や延期、開催検討中など対応に苦慮されていると思います。

この度、日本バレーボール協会から発出されました、「バレーボール競技に関わる大会等再開時のガイドライン」(5/29発出)を事務局よりメールにてお送りいたしましたので一読いただき参考にさせていただきたいと思います。また、その中でも福岡県内でも注意すべきことをまとめて今後の大会開催の判断や開催時のガイドラインとして皆様と共有し、県内活動の再開に向けて協力して進めていけたらと思っています。

なお、各種別における今年度の活動予定を3月の理事会資料として提出していただいておりますが、現時点での中止の状況や今後の大会再開の予定を把握したいと思っていますので、この件につきましても下記の要領で事務局にご報告をお願いします。

記

1 福岡県内の大会等再開時のガイドラインについて

- ①(参考資料)「バレーボール競技に関わる大会等再開時のガイドライン」(5/29発出)
- ②(別紙1)「福岡県内の共有事項」(上記資料より抜粋したもの)

2 今年度の活動予定について

3月の理事会用に提出していただいた各種別ごとに作成した活動予定資料に、下記について上書きしたものを事務局にご提出をお願いします。

- ①中止になった大会等については「取り消し線」を引き「中止」と追記してください。
- ②今後、大会を実施(予定)するものは、そのままの表記のままで残してください。

要提出です

3 今後の大会等の開催について

今後、大会等を実施する場合は、大会実施計画書(別紙の様式1)を事務局にメールまたはFAX等で事前にご連絡をお願いします。

(別紙1)

「福岡県内の共有事項」(JVA資料より抜粋)

以下の共有事項については、JVA資料からの抜粋となります。

再開に当たっては、福岡県や各市町村の規定や指示とともに各カテゴリー別団体(小学校・中体連・高体連・学連等)から発出される指示とを検討し判断してください。また、今後大会を実施する場合は、大会実施計画書(様式1)で予め福岡県バレーボール協会事務局にご報告をお願いします。

1 活動実施の基本的対応については、「新しい生活様式定着までの移行期間」とともに期間ごとに段階的な緩和が示されています。(p2)

ステップ①(6/1~19)	ステップ②(6/19~7/9)	ステップ③(7/10~7/31)
移行期間終了後(8/1~)		

2 活動再開の基本的な実施判断基準(p3)

①感染リスクへの対応が整わない場合は中止または延期するなど慎重に対応する

②ビーチバレーなどの屋外での大会や講習会、研修会については福岡県または各市町村のイベント開催制限の方針に反しなければ、適切な感染防止対策を行い注意しながら実施は可能。

なお、講習会や研修会においては、参加者を把握しておくこと。

③体育館内のバレーボール大会は、※試合用コート1日1面あたり、2チームを超えない範囲での参加に限り、セットごとの換気等の適切な感染防止対策を講じ注意をしながら実施することができる。
※なお体育館施設が十分に確保できている場合は、主催者の判断で3チームまで参加数を増やせる。

3 大会、講習会研修会の開催・実施時における留意点

①大会参加等の募集時には、感染拡大防止のために参加者が遵守すべき事項を明確にし、協力を求めること。また、これを遵守できない参加者については、参加の取り消しや途中退場などを求めることがあることを周知しておく必要がある。

・感染拡大防止の措置事項(p4 ①~⑦)

②大会当日の参加受付時は、参加者の密になることを防止し、安全に受付事務を行う。(p5①~⑦)

③大会参加者への対応は、以下の通り。

「1 書類による体調の確認」(提出は初日のみとします。以降の体温チェックは各チームで特に、大会当日の体温、大会2週間前の状況確認、は確実に行う。

参加者全員の氏名と代表者の連絡先は、事後の検査が必要になったときに使用できるように。

「2 マスクの準備を依頼」

④主催者の準備・配慮事項について

○大会会場、備品関係

・屋内での競技の場合、密閉空間とならないように十分に換気を行う。遮光暗幕を使用してもよいが、セット間に換気を行うなど、定期的に外気を取り入れる。

・試合球はできるだけ複数個準備し、消毒を行って交換しながら使用する。

・フラッグ等の備品もこまめに消毒し、審判用の笛は、唾液がついた状態で放置をさける。

・屋外のテント使用時も密閉を避ける。

・感染対策とともに熱中症対策も並行して行う。

○式典、運営の簡略化

・コイントス時のキャプテンと審判官のあいさつや試合前後の握手は、当面一礼に変える。

・開・閉会式、表彰式は、内容を簡略化したり式典参加者の数を減らす工夫をする。

4 観客の管理について（p 8）

＜観客の入場を認める場合＞

- ・ マスクの着用をできるだけ課す。
- ・ 観客出入口付近通路にアルコール等の手指消毒剤を設置する
- ・ 観客同士が密な状態とならないよう、必要に応じ、あらかじめ観客席の数を減らして間隔を空けるなどの対応（各体育館の規定等と照らし合わせ）をする。
- ・ 試合 前後には観客の一斉移動が起こりやすく、通路等に人が押し寄せて密になる可能性が高いため、主催者によるコントロールが重要。
- ・ 感染拡大の状況によっては、入場時の検温などを導入するのが望ましい。
- ・ 応援については、大声での声援を控えることや会話時のマスク着用などを来場者に周知することが必要だが、トラブル回避のためにもあらかじめ各チームに共通の目安を伝えておくことが有効。

☆上記対応ができない場合や体育館の壁際通路など、観戦場所が狭いスペースに限られる場合、当面は観客の入場を不可とする。